

万葉集

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすく紹介します

vol.122

やすみししわご大王高照らす
日の御子 荒栲の 藤井が原に
大御門 始め給ひて 埴安の 堤
の上に あり立たし 見し給へば
大和の 青香具山は 日の経の
大御門に 春山と 繁さび立てり
畝火の この瑞山は 日の緯の
大御門に 瑞山と 山さびいます
耳成の 青菅山は 背面の 大御
門に 宜しなへ 神さび立てり
名くはし 吉野の山は 影面の
大御門ゆ 雲居にそ 遠くありけ
る 高知るや 天の御蔭 天知る
や 日の御蔭の 水こそは 常に
あらめ 御井の清水

作者未詳 卷二(五二番歌)

藤原宮の御井の歌

持統天皇八(六九四)年十二月、飛鳥の地から藤原京に都が遷されました。この長歌は新しい宮を讚美したものです。題詞に「藤原宮の御井の歌」とあり、歌の最後に「御井の清水」とあるように、宮の水、ひいては宮そのものが永遠であることを予期し祝福しています。

訳

あまねく国土をお治めになる大君、高く輝く日の御子。荒布の藤井の原に新しい朝廷をお作りになつて、埴安の池の堤の上にもお立ちになつて御覧になると、大和の、青々とした香具山は、東の御門に向かつて、春の山とてうっそうと繁茂した姿を見せている。畝火の、この瑞々しい山は西の御門に対して、瑞祥としての山の姿を見せている。耳成の青菅にかこまれた山は、北の御門の前に、恰好の形をもつて神々しくそびえている。その名も美しい吉野の山は、南の御門から遠く雲のかなたにある。高々と統治なさるよ、この大殿。天高く支配なさる日の大宮よ、その水こそは永久にあるだろう。御井の清水よ。

この歌の魅力は、宮の周囲を見渡し、四方の山々を讚えながら詠み込むところにあります。近くに見えるいわゆる大和三山―東の香具山・西の畝傍山・北の耳成山、そしてはるか遠い南の吉野の山という四方の山に守られた地であることとを、六句ずつ対にして歌い上げます。このような壮大な長歌を詠むことができたのはどのような人物だったのか、柿本人麻呂か、あるいは神官か、などさまざまに想像されています。

歌の冒頭「やすみししわご大王高照らす日の御子」は、遷都を行った持統天皇を指すとみるのが一般的ですが、天武天皇の事業を受け継いで遷都に至ったと考えられています。『日本書紀』天武天皇十三(六八四)年三月条には「宮室之地」を定めたと記されています。「藤井が原」、藤原の地は天武天皇によって選ばれた場所だったと考えられます。

(本文 万葉文化館 阪口由佳)

万葉文化館

イベント情報

特別展「生誕110年 佐藤太清展 水の心象」

開催中～7/7(日)

佐藤太清が生涯にわたり多数描き出した「水」に関する作品に着目し、約70年の画業における心象世界の作品を展覧します。



佐藤太清「水」1969年 ©Masako Sato 2023/JAA2300061

万葉集をよむ 「春の雑歌(3)」 (巻8・1432～1440番歌)

申込不要 無料

6/26(水) 14時～15時30分

[定員] 150人(先着) ※オンライン視聴は要申込(定員なし)
[講師] 中本 和(当館主任研究員)

にぎわいフェスタ万葉 春

開催中～6/9(日)

詳しくは当館HPへ。

奈良県立万葉文化館

☎0744-54-1850

🌐www.manyo.jp

